第2章

今まで式シャドーイングによくある "3つの失敗"

　私は英語学習指導をしていますが、シャドーイングの効果について説明すると、次のようにお話される方がいます。

「**シャドーイングは、以前やってみました。それでも、全然話せるようにならなかったんです。**」

　現在、シャドーイングは注目の練習法ですので、　巷にはシャドーイングの参考書やアプリがいくつもあります。

　それら教材に挑戦したものの、効果が出なかったため、別の練習法を探しているといった状況です。

お気持ちはとてもよくわかります。

私も、学習の初期段階でシャドーイングを実践したところ、なかなか成果が出ず、悩んだことがありました。

ただ、**生徒様のお話をよくよく聞くと必ずしも正しくシャドーイングができている方ばかりではないという印象を受けました。**

シャドーイングそのものは理論的にも実証的にも効果があるはずなのですが、誤った方法で練習しているため結果が出ないのです。

そこで、この章では**今まで式シャドーイングにありがちな3つの失敗**についてお伝えします。

もし、あなたが既にシャドーイングを実践しているにもかかわらず、手応えを感じられないのであれば、本章を読むことでやり方を正すことができるでしょう。

また、シャドーイング未経験の方であれば、間違った方法で時間と労力を無駄にせず、効率的に練習を始められるようになるはずです。

ぜひ最後まで御覧ください。

失敗1: 難易度の高すぎる題材を選んでしまう「いきなりシャドーイング」

1つ目の失敗は、難易度の高すぎる題材を選んでしまう「**いきなりシャドーイング**」です。

例えば、あなたが将来洋画を字幕なしで観られるようになりたいという夢があるとします。

そこで、シャドーイングの題材として洋画を使おうというのは、学習者の心理として、ごく自然なことです。

ただ、**初めからネイティブ・スピーカーの生の発話を使ったシャドーイングはおすすめしません**。

なぜなら、**洋画に使われる英語はくだけた話し方をするので、聞き取りは決して簡単ではないからです**。

他にも、海外ドラマや政治家のスピーチ、 YouTube 動画なども同様に、はじめから挑戦するには難しすぎるでしょう。

初学者の方にとって、はじめからこれらを題材として選ぶと、難易度が高すぎて挫折するおそれがあります。

そのため、**シャドーイングに挑戦する場合、英語初学者用に表現の統制された専用教材を使うと良いでしょう**。

洋画等を題材として使うのは、リスニング力とスピーキング力に十分に上がってからでも遅くありません。

失敗2: 音を正しく発音できない「モゴモゴ・シャドーイング」

2つ目の失敗は、英語の音を正しく発音せずに進めてしまう「**モゴモゴ・シャドーイング**」です。

例えば、次の英文をシャドーイングするとしましょう。分かりやすいよう、あえてカタカナで表記します。

People enjoy different types of music all over the world.

(ピープル エンジョイ ディファレント タイプス オブ ミュージック オール オーバー ザ ワールド)

この英文をシャドーイングする際、一つ一つの単語をきちんと、正しい音で発音できている状態が理想です。

ただ、文中には different のように音節数の多い語や、all over the world のように発音が難しい箇所があります。

文中の語数も決して少なくないため、英文の構造がよくわからないまま聞いている状態になりがちです。

そこから、単語の音を正しく発音せず、モゴモゴと似たような音だけを出してしまっているという状態になってしまうのです。

モゴモゴ・シャドーイングをいくら繰り返し行っても、音を正しく発音したり、聞いたりする能力は身につきません。

「シャドーイングを何度もやったのに、発音が良くならない」と思う場合、モゴモゴ・シャドーイングになってしまっていたのではないか、再確認すると良いでしょう。

失敗3: 内容に意識が向かない「口パク・シャドーイング」

3つ目の失敗は　内容に意識が向かない**「口パク・シャドーイング」**です。

例えば、次の英文をシャドーイングするとしましょう。

Democracy is a form of government where power is held by the people, either directly or through elected representatives.

内容は民主主義の定義を述べています。訳は次のようになります。

民主主義とは、権力を国民が直接、または選挙で選ばれた代表者を通じて握る政治形態である。

　知性に富んだ内容で、模範的な教材と言えます。

　ただし、ここで述べられている内容は決して簡単なものではありません。

　特に使われている単語が難しく、 初学者の方であれば、英文を辞書を使って読んだとしても理解できない恐れがあります。

このように、**難易度の高い題材を使うと、私たちの意識は、内容に向かず音を口真似するだけになってしまいます**。

言ってみれば、**単に英語の音を声に出して読んでいるだけで、内容が全く頭に入ってこない状態**です。

このような状態のシャドーイングでは英文処理能力が十分に高まらないため、本来の成果は期待できません。

シャドーイングを開始するにあたり、英文の題材について少し簡単だと思える程度のものを使い、発話しながら十分内容を理解できるようにしましょう。

この章のまとめ

　この章では今まで式シャドーイングによくある3つの失敗について説明してきました。

1. **いきなりシャドーイング**：海外映画やドラマなど、難易度の高すぎる題材を選んで失敗してしまうこと

2. **モゴモゴ・シャドーイング**：正しい口の形で発音できず、モゴモゴと似た音を出してシャドーイングしてしまうこと

3. **ロパク・シャドーイング**：内容に意識が回らず、上の空状態でシャドーイングすること

　シャドーイングの誤ったやり方の回避法がわかったところで、次に気になるのは、正しいシャドーイングの仕方に違いありません。

　そこで、次の章では、シャドーイングの準備方法について説明していきます。引き続き、ご覧ください。